

【川上地区】 ◆各会場で寄せられた主な意見とそれに対する市の見解

問	<ul style="list-style-type: none"> 電子書籍は新図書館で利用できますか。 遠隔地ではパソコンなどで取り込んで使えるものなのですか。
答	<ul style="list-style-type: none"> 電子書籍は、メーカーでばらばらだったものがある程度統一されてきています。 料金など、まだ課題はありますが、新図書館でも利用できるようにしていきたいと考えています。 内容は、具体的にはまだ決まっていません。これからの利用者のニーズなどを踏まえて進めていきます。
問	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場は土日 200 台、平日 60 台と予想されていますが、利用者が 60 人という試算ですか。
答	<ul style="list-style-type: none"> この駐車台数は、近隣の図書館の利用実績から算出した平均的な乗車人数、駐車時間により算出した一度に必要な台数であり、1 日トータルで必要な台数ではありません。 従って、駐車場の必要台数イコール利用者ではありません。 平日でも駐車場が不足すれば、当然にぎわい広場の駐車場を利用させていただきます。
問	<ul style="list-style-type: none"> 誰しもが近い駐車場がいい。4 台分の駐車場は障がい者用ということですが、それ以外の 20 台も配慮されますか。 障がい者かどうかの判別はどのように確認するのですか。 例えば、歩行に支障がない障がい者はどうなるのですか。
答	<ul style="list-style-type: none"> 四葉マークステッカーが貼ってある方は、優先して駐車場をご利用いただけることとなりますが、質問のような事例は、基本的にはモラルの問題だと考えています。 駐車場には必要な表示はしますが、経費もかかるため専任のスタッフを配置する予定はありません。 利用制限をしにくい部分ですが、基本的な考え方で対応します。
意見	<ul style="list-style-type: none"> 張り紙、標識などで駐車場利用について、モラルの啓発をするべきです。
問	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場は、図書館閉館時に閉鎖されますか。
答	<ul style="list-style-type: none"> 図書館周辺の駐車場は図書館で管理し、開館時間外は閉鎖したいと考えています。 中津川幼稚園跡地及びにぎわい広場の駐車場は、図書館及び市街地利用者と共用する部分も出てくるため、管轄する商業振興課と、有料化も含めその利用方法を検討中です。
問	<ul style="list-style-type: none"> 新図書館建設に際して、遠隔地の人に配慮した部分はありますか？
答	<ul style="list-style-type: none"> 直行バスの運行などは計画していません。 ネットワークサービスを充実し、中央図書館の本も各地域で簡単に借りられるようにしていきたいと考えています。 学校ともタイアップして、図書館を利用して生徒に勉強をしてもらおう企画なども取り入れていきたい。 学校図書館への定期的な配本にも、力を入れていきます。 図書館関係の各読書サークル等とのネットワークを作り、中央図書館と公民館図書室との協力を進めます。 中央図書館は拠点図書館として充実を図り、それを市内全域のサービスにつなげ、広域の人にも納得してもらえるサービスをこれから考えていきます。 図書館で、合併した旧市町村の皆さんの心の統一を図れたらいいと思います。
問	<ul style="list-style-type: none"> 創造情報館という名称は大げさです。図書館は基本情報の取得をする所であり、あえて「情報を創造する」とはどういうことですか？ この名称では抽象的であり、具体的に見えてきません。

答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現図書館は本の貸し借りだけで、情報を一方的に提供するのみとなっています。 ・ 新図書館では、交流も目的の一つであり、交流する中で自分には新しい情報を取得し、その情報を自分の考えを交えて新しい情報を創造していきます。 ・ 3階のデジタル工房のスペースでは、自分の知識を本にしたり、例としてサークルの活動を残したりして発信していきます。 ・ それらの拠点となり、地域の文化、歴史などの情報を蓄積、提供をする場所として「創造情報館」という命名をしています。
問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館は、市民の交流の場であり、親子連れや高齢者も多い所です。 ・ 隣接にわずか24台の駐車場では不親切です。明らかに立地条件が悪いのでは。
答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点では、駐車場が近くに十分には確保できない課題はあります。 ・ 将来的には、民間部分も含めて確保できるよう検討していきます。
問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の広報2月号で、市長は「新図書館を中心市街地活性化の鍵としてつくる」とありました。「活性化された市街地」とはどのようなものを言っているのでしょうか。 ・ 図書館としては、中心市街地活性化のためにどのような取り組みをしていくのですか。 ・ 図書館を造っても、中心市街地の活性化が図られるとは思えません。
答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の活性化のため、中津川商工会議所と協力しているいろいろ進めています。 ・ 例えば、六斎市、ママズカフェの取り組みもその一つです。 ・ 図書館ができるだけでは、にぎわいの創出はできません。商店街など周辺と協力して、活性化への取り組みを進めていかなければいけません。 ・ いかに人に来てもらうようにしていくのか。図書館があり、商店があり、と、それぞれを回遊できるように、というのが狙いです。 ・ まずは中心市街地に人が来てもらい、周辺に流れてもらうようにしていくことです。
問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併した町村の人が中心市街地に行くようなイベントは、市のいろんな部局が商店と協力してやらなければ無理です。 ・ 広報にあるような図書館ができるのであれば、活性化だけで建設するのはおかしい。 ・ 「創造する」についても設備や人的対応ができていないと、とても言えない。 ・ 駐車場も立体を考えると、もう少し利用者のことを考えてほしい。
答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創造情報館という「名前」より、「実」が大事と考えています。 ・ 中津川にある伝統文化を記録したいという希望も実際に沢山あります。それを記録・映像化し、インターネットで発信していく。このように若者を含め、デジタル工房を実際に利用し、伝統文化の継承にもつながれば良いと考えています。 ・ 大きな駐車場も完備した郊外型の図書館は、今は日本中どこにでもよくあります。 ・ 確かに必要最低限の駐車場は整備しなければならないことですが、中心市街地にあるからこそ、中津川の路地を歩くこともすばらしいことと考えています。 ・ ワンデーシェフ（従来のように特定のシェフが常駐してメニューを決めて、定型のランチなどを提供しているのではなく、毎日違う人がシェフとなり、毎日違ったメニューで営業すること）、風呂敷の展示など、商店街とはいろいろ協議中です。 ・ また、一つ一つの商店もがんばっていただかなければなりません。
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市街地活性化のためにどうすればいいのか、部局を横断して考え、市全体をあげて取り組みをしてほしい。駐車場も利用者のことを考えてほしい。
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館は、その土地の文化程度のパロメーターと言われています。 ・ 残念ながら、現在の図書館ではそれは低いと言わざるをえません。そのためにも、是非建設を進めてほしい。

問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土地問題やお金、活性化だけで図書館の是非の話が進むのがおかしいことです。図書館は必要な施設であり、リコールなどと切り離して図書館を考えていただきたいです。
答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設の話は、リコールなどの話とは切り離して説明させていただいております。ただし、中心市街地の活性化は、補助金との関係上説明させていただきます。実際全国の例として、活性化の起爆剤となっている図書館も多くあります。 ・ 図書館の可能性を広げ、利用者がつくる図書館を目指したいと考えています。
問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在各地域事務所の公民館には、図書室はありません。 ・ 身近なところに本があることが大事です。「中央図書館に来ればいい」という考え方はだめです。地域の読書推進をもっと進めてほしい。
答	<ul style="list-style-type: none"> ・ (苗木・坂本・落合・阿木・神坂の) 地域事務所には図書室がないのが現状です。 ・ 新しく事務所の整備される所(苗木など)には、図書室の整備もお願いしています。 ・ しかし、一気ににはできませんので、今後の建物の耐震化などと併せて検討し、蔵書も含めて計画的に整備していきたいと考えています。 ・ 読書活動の推進を図るためにも、身近な図書など最低限の部分は地域に置きたい。時間はかかりますが、一つ一つ具体的に解決していきます。 ・ なお、地域子育て創生事業により、絵本や大型絵本、書架などを置き、子供文庫を順次整備しています。(平成23年度は神坂公民館)